

おお大勝利

平成 24 年度山東サッカー部報第 18 号 (10 月 5 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。9月18日発行の部報は、本来部報第16号でありましたが、18日に引きずられ18号と誤って記入してしまいました。それがため、9月27日発行の部報は19号と記されております。訂正いたします。9月18日発行の部報は16号、27日発行の部報は17号、そして、この部報が正しい18号となります。失礼いたしました。

最終節敗戦 Y1ビリ確定 降格決定

9月30日(日)天童第二(人工芝)にてY1上山明新館戦が行われました。これが最終節。勝った方が7位となり、Y1残留の可能性を残す(引き分けは得失点の関係で明新館7位)。しかし、7位になったとしても残留の可能性は完全他力のため、この最終節、気持ちの中では名誉をかけた戦いでしかない。ともにビリは嫌なはず。10:00キックオフ。

前半開始とともに、明新館優勢。山東は相変わらず、前半の入りにはっきりしないプレーが多い。**メンタル的な問題だけではなく、そもそもロングキックまたは跳ね返す際のボレーの技術が足りないため、クリアがショートし、再び攻められる苦しい展開。**デジャブどころか、最近毎回見ている試合展開。そんな悪い流れの中、CBのフィードが相手に当たり、それから一本のパスとドリブルにより失点する。「また今回もか」と無力感を覚える。CB(CB1と略記)が最後寄せ切れなところが守備力のなさなのですが、その前に、もう一人のCB(CB2と略記)がボール奪取にチャレンジに行ったときに、**CB1にCB2が抜かれたときのためのカバーの意識があったか。**もしそれがあれば、CB1が前方にボール奪取に行き抜かれた際の相手のドリブルは「大きなもの」だっただけに、そこで奪えた可能性がある。それ以前の、CB1のパスミスも問題と言ったら問題なのですが、中盤に丁寧にパスしようとした際のミスなので、前向きなミスと受け止めることにします(無理やり)。前半、対する山東は見せ場らしい見え場を作れず、0-1で前半を折り返す。

この試合、顧問の「言い過ぎ(怒鳴り過ぎ)」がピッチ内での選手自身の発言や修正点についての話し合い(その前提としての修正点を自分の頭で考えること)を妨げているのでは、と考え、ピッチに向かって一切話さないことを誓っておりました。そして前半それを実行いたしました。が、ハーフタイム、いつも通り言い過ぎてしまう。「ハーフタイムも何も言わないで、どのように後半修正するか、確かめるべきだったな～」と反省する。

後半早々、山東攻勢。押し気味に進める流れから、相手のOGを引き出し、同点に。しかし、その後の内容は明新館の流れか。CKをニアの選手にフリーでヘディングされ、ゴール前に立っている相手選手に軌道を変えられ、追加点を献上。CKにおいて山東は、マンマーク(人へのマーク)とゾーンマーク(スペースへのマーク)をミックスさせて

おり、そのため（ゾーンマークに人を割くため）相手選手全員をマンマークしきれず、フリーの選手が出てしまうのは仕方がない。しかし、**ニアサイドを守るゾーンマークの選手はいるわけで、その選手の守備範囲の狭さが失点の原因か**。これまた修正点。しかし、山東も粘り、その後、FWへのロングボールを多用し、FWによる単発勝負に出る。もちろん、分厚い攻め、ボールポゼッションを意識した戦いをしたいのはやまやまだが、まともにキック（パス）できない現状からすると、致し方ないか。それでもボランチに入ったクリロンが左右にボールを散らし、薄いところから攻めたてんとするが、いかんせんアウトサイドもアバウトなクロスボールに終始し、相手選手を苦しめるアイデアを出せず仕舞い。それでも、明新館ゴール目の前に上がった浮き球をコテッチャンが相手GKと競り合う。GKはもちろん手でボールを弾きに行き、コテッチャンはヘディングしに行くので、単純な高さだけ考えたらコテッチャン劣勢ですが、そこは「懐の深さ」で相手GKをボールの落下地点に入らせないコテッチャンの押しの強さが光り、ボールがそのままバウンドする。それをリクがボレーでネットを揺らし、2-2へ。面白い勝負になってきました。しかし、山東にとって面白い展開はここまで。CBがボールを奪われ、前に出てきたGKが相手を転ばせ、多くの人がレッドカードを予想したプレーがイエローに終わり「助かる」など、とにかく常に冷や冷やしていなければいけない現在の山東。試合を自ら面白いものにさせる山東の「自作自演」も、そろそろ「お疲れ」とサヨナラしたいところ。最後は、**先のCB1が寄せに行った方向（限定した方向）に易々と相手FWのターンを許し、余ったサイドバックはゴールから外れたところに位置する相手選手が気になりゴール前のボールに寄せ切れず（CB1とサンドできず）、実質的にほぼフリーでフィニッシュを許し、万事休す。2-3で敗戦。「山東がもっと得点取れた試合」というまとめより、「もっと取られてもおかしくなかった試合」というまとめがピッタリくる。早い話、実力負け。**

もし、選手や関係者の中に、「山東の力はこんなものだったか（もっと力あるんじゃないのか）」とと思っている人がいるとすれば、それは現状認識が甘いといわざるを得ません。Y1を通じてよくわかったこと、それは山東はY1で戦うチーム（戦ってよいチーム）ではなかった、ということ。残念ではありますが、それを認めざるを得ません。それではY2がレベル相当か、と云えば、それも怪しい。ここ何試合か観ているに、Y2でも降格するのではないか、と思わざるを得ない。そう書きながら「その現状認識は厳し目に見てだな」と心の中で安心できない、それが実感であります。

敗戦にさばさばした気持ちになり、東海大山形一羽黒の「決勝戦」¹の副審が終わった後、他のY1最終節を観る気になれず、遅めの昼食を取り、斎藤GKコーチとモンテのトップチームの対ヴェルディ戦をスタジアムに観に行く。「久々の勝ち点3ゲットだな～」と勝利の味に浸ろうとしていましたが、終了間際のモンテの「自作自演」で勝ち点2点分が飛んでいく。**昼も夜もため息の一日となりました**。こんなんで、山東は選手権大丈夫なののでしょうか。応援よろしくお願いします。

10月7日（日）選手権大会2回戦VS山工と寒工の勝者 13:00～ @日大山形G

¹ 結果は、羽黒が1-0で勝ち。ただ、前半のうちに一人退場になりながら、しぶとく守ってカウンター攻撃で何度も羽黒ベンチに冷や汗をかかせた東海のベンチ・選手を讃えずにはいけない、そんな熱い試合でした。